

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	国語・現代の国語（普・理）	単位数	2	担当者	仁科
---	----	-------	---------------	-----	---	-----	----

1, 教科書・副教材

現代の国語（筑摩書房）、近現代文学コレクション（第一学習社）
 新訂国語図説六訂版（啓隆社）核心漢字 2500＋語彙 1000（尚文出版）

2, 科目の目標

- ・語彙や知識を身に付け、読解能力を養う。
- ・社会の問題や様々なテーマに関するものの見方、考え方を学び、自ら判断・表現する力を養う。

3, 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查 範囲
前期	4月	①「サイエンスの視点、アートの視点」	①問いを生み出すところのあり方を考える。	35	① ②
	5月	②「ことばとは何か」	②「ことば」という抽象概念を捉える。		
	6月				
	7月	③「旅をする本」	③短編小説の特色を理解する。 本との再開を繰り返すたびに実感される「私」の変化を読み取る。		③ ④ ⑤
	8月	④「わかっていることいないこと」	④文中のグラフ・表の効果を理解する。 また、その活用に対する筆者の注意喚起を把握する。		
9月	⑤「〈私〉時代のデモクラシー」	⑤〈私たち〉の抱える問題点を議論するための姿勢を育てる。			
後期	10月	⑥「バグダッドの靴磨き」	⑥登場人物同士の関係や心情を把握する。 「僕」の発言の背景にあるものを理解する。	35	⑥ ⑦
	11月	⑦「未来は存在しない」	⑦「当たり前」と思う事柄に対する筆者の巧みな議論とレトリックを読み取る。		
	12月	⑧「贅沢の条件」	⑧「贅沢」をめぐる二項対立を整理し、筆者の主張を正確に読み取る。		⑧ ⑨ ⑩
	1月	⑨「来るべき民主主義」	⑨哲学者のことばを手がかりに、物事を根本から問い直す議論の組み立て方を学ぶ。		
	2月	⑩「名づけと所有」	⑩「名づけ」と「所有」の関係を明らかにし、ことばの力について考えを深める。		
	3月				

4, 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	文章・資料を正しく読み解き、活用するための必要な知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	社会の問題や様々なテーマに関するものの見方・考え方を養う。 自分の意見を持ち、他者の意見を尊重しながら主張できる。	定期テスト、 作成や発表等
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・授業を大切にし、扱うテーマや事象について積極的に考え、言語化しましょう。
- ・言語活動に積極的に参加しましょう。
- ・覚えた語彙や漢字を日常生活で使いましょう。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	国語・現代の国語（森・イ）	単位数	2	担当者	丸山・島川・仁科
---	----	-------	---------------	-----	---	-----	----------

1. 教科書・副教材

新編現代の国語（東京書籍） 新訂国語図説（啓隆社） 常用漢字ダブルクリア（尚文出版）
--

2. 科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識・技能を身につける。 ・論理的に考え、他者との関わりの中で伝え合う力を高める。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①村田沙耶香「こそめスープ」	①筆者のものの見方や考え方を読み取るとともに、自分に当てはめて考えることで、文章読解への関心を高める。	35	① ②
	5月	②社会と関わる 「鍋洗いの日々」	②働く人の思いに触れ、社会に生きる自分の将来について考える。		
	6月	「森で染める人」 「真夏のひしこ漁」			
	7月	★【活動（読・書）】職業調べ			
	8月	③石田英敬「未来をつくる想像力」	③評論文を読むための基礎を確認する。筆者の主張を、根拠を理解して読み取る。		
9月					
後期	10月	④文章の書き方 （原稿用紙の使い方、文語表現）	④⑤文章の書き方の基礎を学び、自分の意見を文章で伝える技術を身につける。	35	④ ⑤ ⑥
	11月	⑤小論文（論理的な文章の書き方）			
	12月	⑥山崎正和「水の東西」	⑥二項対立を意識して、両者の特性をつかみながら読み、筆者の主張を理解する。		
	1月	★【活動（話・聞）】言葉と生活1 「わかりやすい説明をしよう」			⑦ ⑧
	2月	⑦港千尋「無彩の色」	⑦具体例の役割を押さえながら読み、筆者の価値観と主張を理解する。		
	3月	★【活動（書）】言葉と生活2 「新聞記事を読んで意見文を書こう」			
	3月	⑧鷺田清一「真の自立とは」	⑧「自立」について自分の考えを持ち、視野を広げる。		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	実社会で必要となる国語の知識・技能を身につける。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通して論理的な思考・判断をし、適切な表現をする。	定期テスト、レポート、作成物、発表
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、語句、様々な表現を自分自身が使えるように繰り返し学習をしましょう。 ・提出物の期限は必ず守りましょう。
--

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	国語・言語文化（普・理）	単位数	3	担当者	丸山
---	-----------	--------------	--------------	------------	---	------------	----

1. 教科書・副教材

言語文化（第一学習社）、新訂国語図説（啓隆社）
 解釈のための 必携 古典文法（啓隆社）、新明説漢文（尚文出版）
 Key&Point 古文単語 330（いいずな書店）

2. 科目の目標

- ・ 古典の世界の豊かさを味わうことを通して、言語文化に対する理解を深める。
- ・ 言葉が持つ価値への認識を深める。
- ・ 的確な把握力、豊かな想像力を培い、他者とコミュニケーションを図る態度を養う。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	古文入門（歴史的仮名遣い） ①「児のそら寝」「絵仏師良秀」	・ 歴史的仮名遣いに気をつけながら音読をし、古文に親しむ。	5 3	① ②
	5月	漢文入門（訓読の基本） ②故事成語	・ 訓読になれる。漢文に由来する言葉について知る。		
	6月	③『伊勢物語』『芥川』	③文章の種類を踏まえ、内容を的確に捉える。 作品の歴史的・文化的背景を理解する。		③ ④ ⑤
	7月	④『徒然草』『丹波に出雲という所あり』	④作品に現れているものを見方を捉える。		
	8月	⑤『十八史略』『完璧』『先従隗始』	⑤時代背景を知り、登場人物の考えや人物像を読み取る。		
9月	《学期を通して》 ▶古文の品詞・活用を学ぶ ▶漢文の訓読を学ぶ。				
後期	10月	⑥近現代の詩歌	⑥詩のリズム、表現技法について知る。作品を味わう。	5 2	⑥ ⑦ ⑧
	11月	⑦漢詩「唐詩の世界」	⑦漢詩の歴史・知識を深める。漢詩を味わう。		
	12月	⑧『伊勢物語』『筒井筒』	⑧作品の歴史的・文化的背景を理解する。 登場人物の心情や人物像を読み取る。		
	1月	⑨『論語』	⑨孔子のものの見方や考え方を知る。		⑨ ⑩
	2月	⑩『土佐日記』『門出』	⑩日記文学や作品の意図について知る。 ユーモアや書き手の思いを読み取る。		
3月					

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の言葉や使い方、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通して論理的な思考・判断をし、適切な表現をする。	定期テスト、レポート、作成物
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 日々の学習（授業）を大事にし、復習をすることで文法・句法の知識を定着させましょう。
- ・ 古文単語は学習習慣をつくり、継続して覚えましょう。
- ・ 提出物の期限を守りましょう。

R 6 年度 学習の手引き（シラバス）

1	学年	教科・科目	国語・言語文化（森・イ）	単位数	1	担当者	丸山・島川・仁科
---	----	-------	--------------	-----	---	-----	----------

1. 教科書・副教材

新編言語文化（東京書籍） 新訂国語図説（啓隆社）

2. 科目の目標

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、言葉がもつ価値への認識を深める。

3. 学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①俵万智「さくらさくらさくら」	① 3首の歌の内容と読まれた心情をそれぞれ考え、筆者の考える日本人独特の感覚とは何かつかむ。	18	
	5月	②古文に親しむ （仮名遣い、音読など）	②③古文の特色を知り、古文を学ぶ基礎を身につける。		
	6月	③「児のそら寝」			
	7月	④長嶋有「雨漏りの音」	④時間の経過に注意しながら本文を読み、登場人物の心情について考える。		
	8月	⑤訓読の基本（訓読）	⑤訓読の方法を学び、漢文を正しく音読できるようになる。		
9月				④ ⑤	
後期	10月	⑥訓読の基本（格言）	⑥訓読の方法を学び、漢文を正しく音読できるようになる。	17	
	11月	⑦「五十歩百歩」	⑦昔の事柄と現代使われる語句とのつながりに気づき、言葉に興味を持つ。		
	12月				
	1月	⑧詩歌 高村光太郎「冬が来た」 佐藤春夫「少年の日」 吉野弘「I was born」	⑧様々な表現の仕方を学ぶ。		
	2月				
3月	⑨「絵仏師良秀」	⑨歴史的仮名遣いに慣れ、主人公の独特な考え方を読み取る。	⑧ ⑨		

4. 評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	古典の言葉や、我が国の言語文化に関する事項について理解する。	定期テスト、小テスト
思考・判断・表現	読むこと、書くことを通して論理的な思考・判断をし、適切な表現をする。	定期テスト、レポート、作成物
主体的に学習に取り組む態度	自らの力を伸ばすために、自ら試行錯誤して学ぼうとする態度を養う。	出席、提出物、授業態度

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

- ・音読を大切に、言語文化に親しみましょう。
- ・提出物の期限は必ず守りましょう。